

目次

まえがき …… 2

第1編 中学生にわかる民事訴訟の仕組み …… 13

第1章 争点は何か …… 15

第2章 争いない事実と争いある事実 …… 21

第3章 主張責任と立証責任 …… 27

第4章 争点と綱引き …… 31

第5章 仕組みを、あなたは知っている …… 34

第6章 裁判と法の支配 …… 38

第7章の1 立証責任の仕組み …… 41

(1) 立証責任の役割 …… 42

(2) 立証責任の分配 …… 43

第7章の2 立証責任の仕組み・舞台 …… 46

(1) 1階の舞台 …… 47

(2) 2階の舞台 …… 47

(3) 舞台のいろいろ …… 49

第7章の3 立証責任の仕組み・昇降機 …… 50

第7章の4 立証責任の仕組み・小学生へ落第 …… 53

第2編 高校生にわかる法律的な考え方・見方 …… 57

第1章 弁護士らの助言の意味と機能 …… 59

(1) 弁護士らの助言の意味と機能 …… 59

(2) 法律の意味	・・・	60
第2章 法律的判断の構成要素と健全な常識良識	・・・	62
(1) 法律家の思考論理の構造	・・・	62
(2) 積み木の最後は、健全な常識、良識	・・・	65
(3) 一般的付録—激論の原因と行方	・・・	67
第3章 法の目的・法解釈、法適用の相対性	・・・	68
(1) 法律の目的・法益	・・・	68
(2) 法律違反の効果、効力の差異	・・・	72
(3) 法律の適用優先順序など	・・・	73
(4) 魚眼・複眼思考	・・・	74
第4章 法律の制定プロセスと法であること	・・・	75
(1) 法律の条文、、ひとつ	・・・	75
(2) 法の制定	・・・	75
(3) 法の解釈	・・・	76
(4) 法の適用と運用	・・・	77
第5章 法解釈の手法—利益考量	・・・	79
(1) 利益対立	・・・	79
(2) 大きな振り子	・・・	79
(3) 小さな振り子	・・・	81
(4) 各種法律の制定	・・・	81
第6章 裁判例・判例の理解	・・・	83
(1) 裁判例・判例の理解	・・・	83
(2) 実例	・・・	86
第7章 訴訟・紛争の問題点	・・・	89
(1) 訴訟の主眼、主たる問題点	・・・	89
(2) 書面の意味と機能	・・・	90
(3) 事実認定の方法など	・・・	91

第3編 中学生にわかるお金の貸し借り …… 95

第1章 貸し金契約の名前 …… 97

第2章 利息金と遅延損害金など …… 98

- (1) 利息金支払いの合意など …… 98
- (2) 利率の約束など …… 98
 - 1 利率の表示など …… 98
 - 2 利率を決めなかった場合の利率 …… 99
 - 3 利息制限法など、一応の制限 …… 99
 - 4 グレーゾーン金利、過払い金など旧法 …… 100
 - 5 刑罰法令により禁止されている高額利率など …… 100
 - ア 民事 …… 100
 - イ 刑事 …… 101
 - 6 高額利率の約束による消費貸借契約の無効など …… 101
 - ア 民法 …… 101
 - イ 貸金業法 …… 102
 - ウ 民法と貸金業法 …… 102
- (3) 利率の支払いの時期など …… 102
- (4) 「期間」の計算方法について …… 103
 - 1 期間の計算方法についての定め …… 103
 - 2 期間の計算 …… 103
- (5) 「単位期間」の利息金計算について …… 104
- (6) 「端数期間」について …… 105
 - ア 端数期間暦年計算 …… 105
 - イ 端数期間365日計算 …… 106
 - ウ 端数期間2月29日計算 …… 106
 - エ 年365日計算 …… 106
 - オ 全期間暦年計算 …… 106
- (7) 発生利息金額について …… 107
- (8) 端数計算の方法—切り捨て処理などについて …… 107

(9) 借金を現金で支払う場合—端数処理—四捨五入	・・・	108
(10) 弁済の日について	・・・	108
1 弁済する日の約束がない場合	・・・	108
2 弁済する日を約束していた場合	・・・	109
3 弁済日の約束は誰のため?	・・・	109
(11) 弁済の順序	・・・	109
(12) 借用書など	・・・	109
(13) お金は翼つきの魔物	・・・	110
(14) 多重債務	・・・	110
(15) 利息制限法による引き直し計算	・・・	111
(16) 過払い金の返還請求	・・・	112
(17) 保証人	・・・	112
(18) アドオン利率	・・・	113
(19) 注意(期間計算)	・・・	114
(20) 利息金計算の構造と種類	・・・	114
ア 暦年、年利計算	・・・	114
イ 非・暦年、年利計算	・・・	114
第3編付録 中学生にわかる「かんたん計算くん」	・・・	115

第4編 刑事裁判の本質的特性 ・・・ 119

第1章 民事裁判と刑事裁判は、赤の他人	・・・	121
(1) 民事裁判と刑事裁判の違い	・・・	121
ア 刑事裁判	・・・	121
イ 民事裁判	・・・	122
ウ 民事・刑事裁判の判決の執行	・・・	122
エ 同一事件の民事・刑事裁判の非同一性	・・・	123
a 判決宣告の方式の違いなど	・・・	123
b 判決正本、謄本の交付など	・・・	125
(2) 民事裁判と刑事裁判は赤の他人	・・・	126

(3) 民事裁判、刑事裁判の生い立ち、法と裁判	・・・	127
ア 法と裁判について	・・・	127
イ 法の役割について	・・・	130
a 裁判規範	・・・	130
b 行動規範、行為規範	・・・	132
ウ 民事裁判と刑事裁判の年齢など	・・・	133
a 民事裁判の年齢	・・・	133
b 刑事裁判の必要性	・・・	134
c お白洲時代	・・・	135
d 人権という観念と刑事裁判の変容	・・・	136
e 罪刑法定主義の思想	・・・	137
f 罪刑法定主義	・・・	138
g 裁判と法の逆転現象	・・・	138
h 法 → 支配者、国家権力を規制するものに変容 → 「法治」の誕生	・・・	139
(4) 刑事裁判の「批判的国家権力」という特質	・・・	140
ア 批判的国家権力という特質の保有	・・・	140
イ 批判的国家権力の意味	・・・	142
第2章 刑事裁判の公判審理の構造	・・・	143
(1) 目的の違い、立証の程度、立証責任の所在の違い	・・・	143
ア 民事裁判の目的、立証の程度、立証責任	・・・	143
イ 刑事裁判の目的、立証の程度、立証責任	・・・	144
ウ 証明の程度、心証の程度、事実の認定	・・・	145
(2) 審理の構造	・・・	146
ア 三審制	・・・	146
イ 一審の構造	・・・	147
ウ 二審（控訴審）の構造—続審と事後審の違い	・・・	148
(3) 当事者主義に基づく審理と職権主義の発動	・・・	150
ア 近代司法、裁判手続きにおける当事者主義	・・・	150

イ	民事裁判	・・・	151
ウ	刑事裁判	・・・	152
エ	弾劾的刑事訴訟構造の前提条件の欠落と難点	・・・	154
第3章	裁判所の国家機関としての役割、限界、そして宿命	・・・	157
(1)	検察官の後見人のような訴訟指揮をする裁判所	・・・	158
ア	現実の力の差と当事者主義	・・・	158
イ	現実の刑事裁判所の訴訟指揮	・・・	158
ウ	国家機関としての裁判所の限界、宿命	・・・	158
エ	裁判所に依存する検察官	・・・	164
(2)	刑事司法に期待されることなど	・・・	164
ア	検察官に期待される事項	・・・	164
イ	裁判官に期待される事項	・・・	165
ウ	不完全な刑事司法の中で生きる私たち	・・・	165
後記	注書き	・・・	167
	注書き1	「大審院昭和8年2月4日判決 ・集12・22その他」	・・・ 167
	注書き2	「民事判決と刑事判決の宣告手続きの差異」	・・・ 167
	注書き3	「裁判規範」	・・・ 168
	注書き4	「行動規範、行為規範」	・・・ 168
	注書き5	「処罰を求める者、被害者と検察官」	・・・ 168
	注書き6	「糾問主義」	・・・ 168
	注書き7	「人権」	・・・ 169
	注書き8	「罪刑法定主義」	・・・ 169
	注書き9	「法治思想」	・・・ 169
	注書き10	「三権分立の思想」	・・・ 169
	注書き11	「批判的国家権力」	・・・ 170
	注書き12	「最高裁昭和50年10月24日 第二小法廷判決」	・・・ 170
	注書き13	「検察官」	・・・ 170

注書き 14	「無罪の推定」、「疑わしきは被告人の利益に」	・・・	171
注書き 15	「刑事事件における事実の認定」	・・・	172
注書き 16	「違法収集証拠排除の法理」	・・・	172
注書き 17	「統審」	・・・	173
注書き 18	「民事訴訟法の関連条項」	・・・	173
注書き 19	「事後審」	・・・	174
注書き 20	「刑事訴訟法の関連条項」	・・・	175
注書き 21	「接木的な事後審」など	・・・	176
注書き 22	「弾劾的刑事訴訟」	・・・	176
注書き 23	「職権発動」	・・・	176
注書き 24	「法内在的正義としての秩序」	・・・	177
注書き 25	「外局が本局を飲み込む検察庁」	・・・	177
注書き 26	「刑事司法の中核である検察官」	・・・	178
後注書き索引		・・・	179

第5編 強制執行（民事執行）の仕組み ・・・ 181

第1章	刑事裁判と民事裁判の執行	・・・	183
第2章	強制執行（民事執行）ができる書類は、どんなもの??（債務名義）	・・・	186
第3章	債務名義の種類など（各種の債務名義）	・・・	190
第4章	不動産の競売は、どうするん??（不動産競売）	・・・	193
	(1) 不動産競売、3点セット	・・・	194
	(2) 現況調査報告書	・・・	194
	(3) 評価書	・・・	195
	(4) 物件明細書	・・・	195
	(5) 期間入札の公告	・・・	197
	(6) 開札、売却許可決定、代金納付、配当など	・・・	197
	(7) 剰余主義による競売制限など	・・・	197

第5章 動産の競売，銀行預金の差押えなどは、どうするん??（動産競売、債権差押など）・・・ 198

（1）有体動産差し押さえ・・・ 198

（2）債権差し押さえ・・・ 198

著者紹介・・・ 199